

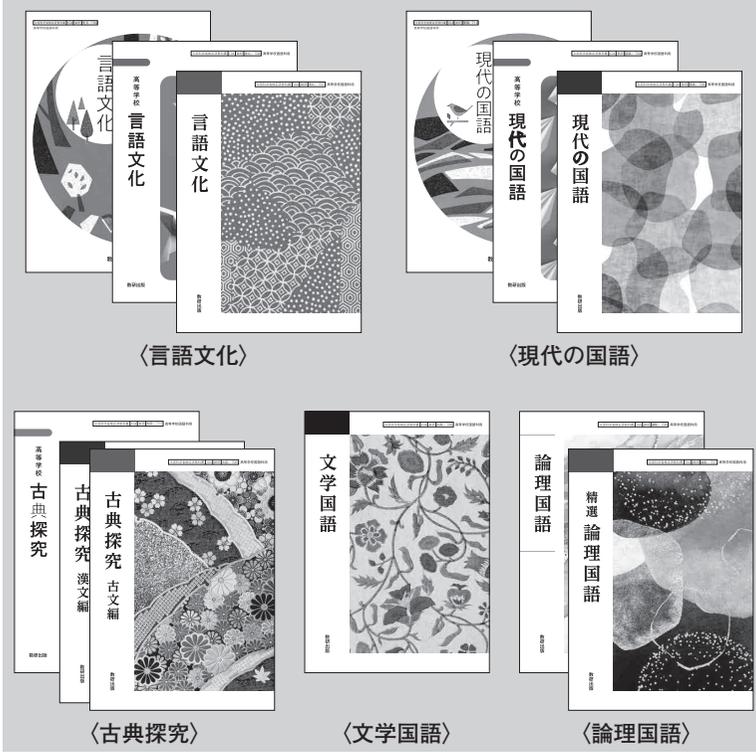
新課程版

数研出版「国語」

Q & A

数研出版では、新高等学校学習指導要領 必履修科目「現代の国語」「言語文化」及び選択履修科目「論理国語」「文学国語」「古典探究」の教科書を発行いたします。各教科書の特徴をQ & A形式にてご紹介いたします。

【新課程版 教科書ラインアップ】



〈言語文化〉

〈現代の国語〉

〈古典探究〉

〈文学国語〉

〈論理国語〉

Q 1 新課程に向けて、数研出版の教科書はどう変わったのか？

A 1 新制度が求める新たな学びを、これまで培われてきたご指導方法の延長線上に盛り込みました。従来の授業スタイルをベースに内容を構成し、定番題材と新しい題材をバランスよく収録しています。また、より体系的に学習できるよう、従来好評のコラムページ（ズームアップ）「チェックポイント」を強化しました。新課程でポイントとなる「言語活動」は、「てびき」や「ズームアップ」に課題を収録して、スムーズに学習・指導できるようになっています。

Q 2 言語活動を授業にどう組み入れればよい？

A 2 各題材の「てびき」に「言語活動」を収録していますので、読解を妨げずに、題材を扱う流れの中で取り組むことができます。また、授業準備をスムーズにするサポート教材として、教授資料の付属データに「言語活動ワークシート」をご用意しています。

Q 3 観点別評価にはどのように対応すればよい？

A 3 各教授資料の「てびきの解説」に、三観点に対応した評価規準と評価基準例を掲載しています。教授資料や評価問題集に掲載している問題には、各観点への対応を明記しました。また、教授資料付属データには、「教師用ルーブリック」や、「話すこと・聞くこと」「書くこと」の言語活動に対応した「生徒用評価表」をご用意いたします。さらに、「観点別評価集計例ファイル」で評定算出のサポートをいたします。

Q 4 「書くこと」「話すこと・聞くこと」の領域の学習は教科書にどう盛り込まれているのか？

A 4 『現代の国語』には、「読むこと」に対応した「読み深める」と「書くこと」に対応した「考えを表す」の二編を設け、「話すこと・聞くこと」を「ズームアップ」で学習できるような構成しています。『高等学校 現代の国語』は、同一単元で「読むこと」「書くこと」を関連づけて学べる構成で、「てびき」や「ズームアップ」を通して「話すこと・聞くこと」の学習事項を押さえることができます。『新編 現代の国語』は、【評論題材（読む）】と【チェックポイント（話す・聞く）または「書く」】を基本とした単元構成で、各領域をバランスよく総合的に学習できるようになっています。

Q 5 新制度入試への対応はどのような가요？

A 5 《比べ読み》各教科書には、「探究の扉」のページを設けて、比較読解用の題材を収録しています。また、教授資料には、定期試験用として各題材との比較読解用教材や問題例をご用意していますので、教科書題材を軸に入試対策に取り組むことができます。

《実用文・図表資料》「実用の文章」の単元（現代の国語）や各題材の「てびき」に収録した文章・資料を用いて指導いただけます。

Q 6 「言語文化」（標準2単位）で、古典・小説をどう指導すればよい？

A 6 古典分野では、各題材の合間に、「体系古典文法」「体系漢文」とリンクした「チェックポイント」のページを設けていますので、効率的で体系的な文法学習・指導をいただけます。また、教授資料からご利用いただける「古典文法解説動画」で文法学習をサポートします。

小説分野では、扱いやすい定番題材（羅生門など）を中心に収録しています。また、授業の進行をサポートする素材として、板書代わりに活用いただける「本文スライド」データも用意しています（↓Q 9）。

Q 7 「文学国語」が開講できない。文学的文章はどう扱えばよい？

A 7 『論理国語』では、読解力・表現力・思考力をより深めるための資料として、評論題材と小説（山月記など）の一部を比較しながら解説したコラムを巻末に収録しており、文学的文章に触れていただくことが可能です。また、教科書で定番の小説を学べる『定番小説選』を新たに発行いたします。学校設定科目や補習、課題での学習・指導用にご検討ください。

Q 8 生徒用タブレット端末を活用したいが、どのような教材がある？

A 8 教科書の学びを深めるためのQRコンテンツを、教科書紙面に掲載の二次元コードからご利用いただけます。また、プリント配信や教材連携の機能を備えた、学習者用デジタル教科書・教材や学習者用デジタル副教材も用意しております。

Q 9 オンラインやICT利用の授業向けに、どのような教材がある？

A 9 教授資料付属データには、教科書紙面データや加工可能な各種スライドデータ（※）をご用意し、スムーズな授業をサポートします。※スライドデータ：本文解説用（現代文分野は本文展開図、古典分野は現代語訳や書き下し文を掲載）や古典文法解説用など。

指導者用デジタル教科書には、掛図機能を新規搭載。リフロー表示の状態から、古典の口語訳類をマスク表示したり、古文の活用表を拡大表示したりもできます。現代文題材では、本文の一部をカード化できる機能を搭載。板書と併用することで効果的に授業を進めただけです。

（教授資料・デジタル教科書は現在編集中のため内容が変わる可能性があります。）